

授業科目 評価学演習

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
古西 勇		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60 (検査測定法:15)
【概要・一般目標:G10】 専門基礎分野で学んできたことを、この時期より学び始める専門分野(動作分析学などの基礎理学療法学と検査測定評価学、運動病態学、日常生活活動学)と結びつけ、各種検査測定法の応用に慣れ、代表的な領域(骨関節疾患や中枢神経障害など)を想定した検査測定評価の「思考」と「技術」を修得する。					
【学習目標・行動目標:SB0】 1. 各種検査測定法の基礎知識を確認し、応用に慣れる。 2. 代表的な領域(大腿骨頸部骨折と脳血管障害)を想定して専門用語に慣れる。 3. 必要な情報や検査測定項目を列挙し、その実施計画を立て、それを実施する検査測定評価の流れを模倣する。 4. 情報と検査測定結果を結びつけて統合と解釈を行い記述することを模倣する。 5. 解釈に基づいて、問題点を列挙し、目標や治療プログラムを立案することを模倣する。 6. 臨床で行う記録と症例研究の考察を模倣する。 7. 学生間で学びあいながら自主的、計画的に共同作業に取り組む。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	関節可動域測定と徒手筋力検査の基礎知識の確認と応用			1	小テスト・演習 古西
2	各種検査測定法の応用、大腿骨頸部骨折を想定した検査測定			2,3,7	演習(グループ) 古西
3	大腿骨頸部骨折を想定した症例検討			4,5,7	演習(グループ) 古西
4	各種検査測定法の応用、脳血管障害を想定した検査測定			2,3,7	演習(グループ) 古西
5	脳血管障害を想定した症例検討			4,5,7	演習(グループ) 古西
6	動作の観察、記述			4,5,7	演習(グループ) 古西
7	評価と治療経過の記録			6,7	演習(グループ) 古西
8	症例研究の考察、まとめ			6,7	演習(グループ) 古西
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		診察と手技がみえるvol.1 第2版 新・徒手筋力検査法 第8版 (もう1冊、後日指定)	編集 古谷伸之 Hislop HJ 他	メディックメディア 協同医書出版社	2007・6,300円 2008・7,875円
参考書		ベッドサイド神経の診かた 第16版 理学療法評価学 第2版	田崎義昭 松澤正	南山堂 金原出版	2004・7,560円 2004・6,510円
その他の資料					
【評価方法】 出席、毎回の提出物、実技試験、定期試験(筆記)、その他。		【履修上の留意点】 夏期休暇前に後期授業オリエンテーションを実施(後日、日時を掲示)し、休暇中の自己学習課題(小テストの範囲)を出し、授業を受ける際の服装などの注意事項を説明します。打鍵器と関節角度計、いくつかの小物(安全ピン、つまようじ、筆、ゼムクリップ、メジャーなど)を自分で購入・準備してもらいます。実技試験は1月に予定。			